

## 〔資料紹介〕 昭和49年撮影『竹富島の種子取り』 － 無形文化遺産部収蔵フィルムとそのデジタル化 (2) －

佐野真規

### <はじめに>

現在（2015年3月）、東京文化財研究所無形文化遺産部では組織の前身である東京文化財研究所芸能部時代に収集・撮影・寄贈された映像フィルムを35点収蔵している。

昨年度はその内6点をデジタル化して内容調査を行い報告した。今年度は継続して2点の資料をデジタル化し、内容調査を行った。本稿ではその紹介をする。

デジタル化を行ったのは昭和49（1974）年に撮影された『竹富島の種子取り 第一部』『竹富島の種子取り 第二部』である。

### <デジタル化したフィルムの詳細>

今年度デジタル化したフィルムについて、現在分かっていることについて仔細を紹介する。

#### 【FILM16-6-1 竹富島の種子取り 第一部】

#### 【FILM16-6-2 竹富島の種子取り 第二部】

このフィルムは沖縄県八重山郡の離島である竹富島で行われる、種子取りと呼ばれる豊穰を祈る豊作祭の記録映画である。この作品は昭和49（1974）年10月に種子取り祭を記録・撮影したものであり、作品の企画を伝統文化財記録保存会が行い、岩波映画製作所が制作の依頼を受けて撮影した。第一部、第二部に分かれ、それぞれ46分、50分の16mmカラーフィルム作品で、現地録音の音声も収録されている。伝統文化財記録保存会とは、昭和48（1973）年に結成された法人である。当時文化財保護審議会専門委員の本田安次氏が中心となって、放送文化基金の助成により、全国各地に伝承されている民俗芸能・民俗行事を映像記録し保存していた。法人の理事長に本田安次氏、理事に萩原龍夫氏、郡司正勝氏、三隅治雄氏、仲居幸二郎氏、山路興造氏が就いていた。同会が昭和57（1982）年6月に発行した製作フィルム目録に「竹富島の種子取り 第一部」「竹富島の種子取り 第二部」についての記載があるので、それぞれ引用する。フィルム目録には同会が作成した各作品の収録内容について詳細が記されている。なお、同目録は本田安次氏の旧蔵資料として、早稲田大学へ平成20（2008）年に寄贈されたものにあたった。

○種子取り 第一部 EKカラー、46分、解説なし、現地音あり 1974年10月

竹富島の種子取りまつりは、10日間にわたる豊年祭りの行事であるが、フィルムには4日目から9日目までの特有な民俗と芸能を撮影した。本編では飯初づくり、種下ろし、バリヒルのお

願、干鯛の式など沖縄ならではの珍しい行事、社殿前の棒おどり、たねとり豊年おどりなどのあと、テントの中の舞台芸能に移る。夜になると、この広場から道歌を歌いながら、司を先頭にした一団が民家を訪れる。世乞いといわれるこの盛んな行列は夜を徹して行われる。

○種子取り 第二部 EKカラー、50分、解説なし、現地音あり 1974年10月

まだひとつ子一人集まらない嶽の舞台では「あぶじい狂言」が儀式のように演ぜられている。能に近いもので村の古老たちが豊作を祈る神聖な劇。夜が明けると奉納芸がはじまる。「ほんじゃー」「みろく」「あまんち」4人で舞う「種子蒔狂言」優雅に洗練された「たのりゃー」コミカルな「さんぐるろ」「鬼狂言」など。周囲8キロ余りの小さな島だが、東、西、仲筋の3部落<sup>1)</sup>があってそれぞれの青年男女が1日交代で舞踏、歌劇、狂言などを奉納公演する。

以上が引用である。種子取り祭は現在でも竹富島で盛大に、島をあげて執り行われている。祭りの起源は今から600年前とする説や、900年前とする説もあり、いつごろから始まったのか明確となっていない。祭りが行われるのは新暦の十月、十一月にくる「甲申きのえさるから甲午きのえうま」の十日間で、奉納芸能が行われるのは庚寅かのえとら（第七日目）と辛卯かのとう（第八日目）である。

撮影された当時の製作経緯について監督を務めた山内氏にも聞き取りを行い、判別したことを記す。

「撮影は1974年10月13日に竹富島に入って、翌14日より行われた。10月14日（戊子・祭りの第五日目）に粟の種子蒔きをする様子（山之内氏によると「種子おろし」と言われた）、ウツカイの儀（神々に種子取祭の奉納芸能が世持御嶽で執り行われることの案内をする）、などを撮った。10月15日に島の住人の一人である上勢頭うえせととある享氏のインタビューなどを撮り、10月16日（庚寅かのえとら・祭りの第七日目）、10月17日（辛卯かのとう・祭りの第八日目）には奉納芸能を撮影した」という。

昭和51（1976）年6月4日、6月5日、6月6日に国立劇場にて第二十三回民俗芸能公演「竹富島の種子取祭の芸能」と題して竹富島の人々による芸能公演が行われているが、本記録映画はそれ以前の作品である。国立劇場の舞台で上演するという関心から、昭和51（1976）年度以降は竹富島の本祭でも演出を意識した調整がなされるようになったという。それには、昭和52（1977）年に「種子取り祭」が国の重要無形民俗文化財指定を受けた事も重なっているだろう。国から文化財指定を受けたことにより、島の人々も農耕儀礼としての祭りを楽しむという意識から、伝統芸能を保存・継承していくという意識へと変化していく必要があったことは想像に難くない。本資料は大きな変化を迎える節目以前に記録された映像であり、そうした時代の移り変わりと共に変化していく無形の民俗芸能を現代に伝わる伝承と比較し得る貴重な映像記録となっている。種子取り祭りの演目次第について、昭和51（1976）年の国立劇場公演の演目を比較参考として公演筋書きより以下に引用する。

【国立劇場民俗芸能公演 竹富島の種子取祭の芸能】

Aプロ（昼の部）6月5日・6日 二時（注 玻は、はざま地区 仲は、仲筋地区）

第一部

○道の芸能 世乞ゆーくい（仲・玻）道歌・巻踊り・しきどうよ

○庭の芸能 棒踊り（仲・玻）まみどーま（仲）真栄節まごかい（仲）腕棒（仲）馬乗うまぬしやー（玻）

## 第二部

- 舞台の芸能 仲筋<sup>ほんじゃ</sup>長者（仲）弥勒（仲・玻）仲良田<sup>ほん</sup>節（玻）竹富<sup>ふんがしや</sup>節（仲）狂言組頭（玻）  
種子取<sup>あさどや</sup>節（玻）さんぐるろ（仲）島の楽器による民謡（玻）—安里屋<sup>あさどや</sup>ユンタ、鳩  
間<sup>うら</sup>節 蔵<sup>ぼな</sup>の花<sup>ま</sup>節（仲）真南風<sup>まふえら</sup>乙<sup>ず</sup>節（玻）狂言<sup>あまんち</sup>天人（仲）—五日 狂言御主前（あ  
ぶじい狂言）（仲）—六日 元たらぐじ（玻）種子蒔<sup>たのりや</sup>踊（仲）狂言世<sup>うーびき</sup>曳（玻）

Bプロ（夜の部）6月4日・5日 六時（注 玻は、はざま地区 仲は、仲筋地区）

## 第一部

- 道の芸能 世<sup>ゆーくい</sup>乞（仲・玻）道歌・巻踊り・しきどうよ  
○庭の芸能 棒<sup>うまぬしやー</sup>踊（仲・玻）じっちゅ（玻）腕棒（仲）めすべのだんごま（玻）馬<sup>うまぬしやー</sup>乗（玻）

## 第二部

- 舞台の芸能 はざま<sup>ほんじゃ</sup>長者（玻）弥勒（仲・玻）月夜浜<sup>く</sup>節（仲）鳩間<sup>く</sup>節（玻）狂言鍛冶工（玻）  
しきだ盆（玻）古見<sup>く</sup>の浦<sup>ん</sup>節（仲）島の楽器による民謡（玻）—安里屋<sup>あさどや</sup>ユンタ、鳩  
間<sup>うら</sup>節 仲筋<sup>ほんじゃ</sup>ぬヌベマ（仲）大原越地<sup>く</sup>節（玻）狂言するっくい（仲）—四日 狂言  
種子蒔（仲）—五日 安里屋<sup>あさどや</sup>節（玻）種子蒔<sup>たのりや</sup>踊（仲）狂言世<sup>うーびき</sup>曳（玻）

全国竹富島文化協会『沖縄県竹富島の種子取祭台本集 芸能の原風景』瑞木書房（1998年2月）に収稿されている猪俣恵一『竹富島の種子取祭』によると、近代の種子取祭は3つの時期に分けて考えることができるという。第一期は明治36（1906）年から昭和20（1945）年の人頭税廃止から終戦まで。第二期は昭和21（1946）年から昭和51（1976）年までの終戦後多くの復員に溢れた時から一転して離島地域の過激な過疎化に襲われた時期であり、昭和51（1976）年の国立劇場公演の節目を迎える時期。第三期は国立劇場公演の翌年昭和52（1977）年から現在までである。つまり、本記録映画はその第二期と第三期の境目の種子取り祭の記録であり、比較すべき資料として有意義であると言える。

また、デジタル化に際してこの記録映画について権利関係の確認を行った。著作権は企画した伝統文化財記録保存会が所持していたものと思われるが、結成当時の理事である三隅治雄氏に聞き取りを行ったところ、現在では同会は解散しており権利の行使をする状態にないという<sup>2)</sup>。一方、制作を担った岩波映画製作所も平成10（1998）年に倒産し平成12（2000）年に日立製作所に権利が売却譲渡された。その後、日立製作所から岩波映画製作所のフィルム原版が東京大学・東京芸術大学へ寄贈されるのを契機に、非営利の一般社団法人記録映画保存センター（平成20（2008）年7月設立）へ岩波映画製作所の権利も一部移管された。しかし、同センターに問い合わせた所、同センターが所持する岩波映画製作所の著作権リストの中にも「竹富島の種子取り」は含まれていないという。その為、明確な著作権権利者が現在は不在である記録映画となり、著作権が消滅した可能性が非常に高い。当研究所では同作監督の山内登喜夫氏よりフィルムの寄贈を受けており、作品の著作権者人格権をもつ同氏に許諾を得てデジタル化を行うこととなった。

## <竹富島の地域コミュニティと祭事>

昭和40年代から島では急激に過疎化が進んでいたが、それを補うようにこの頃から石垣島、沖縄本

島在住の竹富島出身者が奉納芸能に参加するようになった。現在でも各地の竹富島出身者たちは連携して郷友会きょうゆうを組織し、年に一度の種子取り祭で奉納芸能を行うなど、島を出たあとも出身地域のコミュニティ形成を継続する意識を持っている。

今回、筆者はデジタル化した資料の内容について、竹富島にて聞き取り調査を行った。その際、竹富島公民館館長である大山榮一氏、昭和40年代中頃に公民館館長を務めた狩俣正三郎氏らから記録映画が作成された当時の種子取り祭について、また現在の種子取り祭の地域における位置づけ等について情報を得た。大山榮一氏によると「竹富島は国選定重要伝統的建造物群保存地区であり、景観の保護や継承についても地域コミュニティのあり方が影響している。好き勝手な外観の住宅で住むのは簡単で、そちらのほうが快適かもしれない。しかし、互いに連携して景観を守っている。それを可能にするのも連帯の軸、コミュニティ形成の核に、島の祭りがあるからだ。祭りの奉納芸能の練習で度々顔を合わせ、近所の子供にも指導する。それ故、顔を合わせた付き合いが継続でき、他人の子供にも地域として子育てに関わることができる。そうした取り組みが地域のコミュニティ形成に大きな役割を果たしている。それも祭りがあるからだ」と言う。

一方、竹富島でも本記録映画の存在は知られていたが、利用に給せるものは劣化して不明瞭となったビデオテープの映像しかなく、写っているのがどういった人物であるかという情報も判別できないものであったと聞いた。今回、竹富島の人々と共にデジタル化した記録映画を鑑賞しながら行った聞き取り調査では、写っている40年ほど前の人々を指差して、「あ、〇〇〇のおじー」「若いね」「△△△の、この前亡くなってしまったね」といった近所の顔をよく知る島の人々の会話に花が咲いた。それは無形の文化財とその「記録」がもつ意義を考えさせられる時間でもあった。無形の「記録」は伝承や研究の比較材料としてだけではなく、地域の人々を直接「記憶」で繋ぐことができる可能性があるのではないだろうか。今回デジタル化した資料は、「記録」としてのそうした意義を問いかけ得る。祭事等の無形の文化財だけでなく、その「記録」にも、地域を連帯させる役割が担え得る可能性がある。

## <結び>

以上、今年度デジタル化した無形文化遺産部の収蔵フィルムについて紹介を行った。今後も継続して調査を行う方針である。今回の資料調査には大城學氏（琉球大学）、狩俣恵一氏（沖縄国際大学）、狩俣正三郎氏、大山榮一氏、阿佐伊拓氏、榎木章氏（東京国立近代美術館フィルムセンター）、沖縄県教育庁文化財課、民宿内盛荘、竹富島ビジターセンター 竹富島ゆがふ館、一般社団法人記録映画保存センターにご協力を頂いた。改めて御礼申し上げます。

## 《注》

- 1) 竹富島には玻座間と仲筋の2つの地区があり、玻座間はさらに東と西に分かれる。
- 2) 著作権者である法人が解散し、その法人を承継する者がいないので、著作権は消滅する。（著作権法62条1項2号）

## 《参考文献》

- 全国竹富島文化協会『沖縄県竹富島の種子取祭台本集 芸能の原風景』瑞木書房1998年2月  
 伝統文化財記録保存会『製作フィルム目録』1982年6月  
 国立劇場事業部『国立劇場第23回民俗芸能公演 八重山の歌と踊り 竹富島の種子取祭の芸能 筋書』1976年6月

## ＜フィルム表 凡例＞

今回デジタル化した「竹富島の種子取り 第一部」「竹富島の種子取り 第二部」について、平成26（2014）年度の無形文化遺産研究報告第8号から新しく判明したことがあった。後述の表1、表2において昨年度のリストに加筆修正をして、情報を開示する。

表1は無形文化遺産部が収蔵しているフィルムの全リスト、表2は今年度デジタル化した2点のフィルムについての詳細を示す。また、リストには調査途中につき内容不明の資料も含まれている。フィルムのデジタル化に際しては株式会社 東京光音に委託してHDテレシネを行った。

## ・登録番号

各フィルムに振られた整理番号である。16mmの素材には親番号FILM16とし、8mmの素材はFILM8と記す。頭番号以降の数字を子番号として、個別のフィルム資料を表す。また、子番号の次桁の数字を孫番号とし、同一作品の別素材と見受けられるもののみにふって対応している。

## ・タイトル名

フィルムケースや内容から判別したタイトル、演目名などを記した。

## ・フィルム種別

16mmか8mmかの区別を記す。また判別しているものについては白黒映像か、カラー映像かの区別を記した。

## ・収録時間／フィルム尺

記録されている分数とフィルムの長さを記した。

## ・撮影年

撮影が行われた日付が判別しているものについては、撮影された年月日を記した。

## ・撮影場所

撮影された場所、地域が判別しているものについてはその地域・場所を記した。

## ・内容／概要

撮影されている内容が判別しているものについては詳細を記した。

## ・音

映像に音声の収録があるものについてはその有無を記した。

## ・フィルム状態

損傷やビネガーシンドロームがある場合、フィルム資料の状態を記した。

## ・付属資料／備考

フィルム缶や箱に付属のメモや資料がある場合は記した。

表 1

登録番号	フィルム種別	フィルムタイトル	時間	撮影年月日	撮影場所
FILM16-1	16mm b.w.	京舞 七ツ子 井上八千代	9分		
FILM16-2	16mm b.w.	東京国立文化財研究所開所記念行事「関東の神楽」	54分	1982年12月12日	東京文化会館小ホール
FILM16-3	16mm b.w.	島根県鹿足郡津和野町 1. 津和野盆踊 2. 祇園 薫舞	10分	1953年8月	島根県鹿足郡津和野町
FILM16-4	16mm b.w.	神代舞 群馬県群馬郡榛名町	21分	1953年	群馬県群馬郡榛名町 榛名神社
FILM16-5-1	16mm b.w.	雪祭 ランシューフィルム/知恵の美百科 (ゆきまつり) ポジ R-1 編集	36分		不明
FILM16-5-2	16mm b.w.	雪祭 ランシューフィルム/知恵の美百科 (ゆきまつり) ポジ R-2 編集	17分		不明
FILM16-6-1	16mm color	竹富島の種取り 第二部	46分	1974年10月	沖縄県八重山郡竹富町
FILM16-6-2	16mm color	竹富島の種取り 第二部	50分	1974年10月	沖縄県八重山郡竹富町
FILM16-7	16mm color	能一鑑賞の知識- 文部省特選 国際演劇協会推薦	38分	1968年	
FILM8-1-1	8mm	第4回沖縄県民俗芸能大会 エイサー (石川、山里)	6分	1975年11月29日	夕陽の広場
FILM8-1-2	8mm	第4回沖縄県民俗芸能大会 打花鼓 (中塚村伊集)	10分	1975年11月29日	夕陽の広場
FILM8-1-3	8mm	第4回沖縄県民俗芸能大会 唐棒と獅子舞 (高古郡多良間島)	10分	1975年11月29日	夕陽の広場
FILM8-1-4	8mm	第4回沖縄県民俗芸能大会 京太郎 (沖縄市泡瀬)	20分	1975年11月29日	夕陽の広場
FILM8-2-1	8mm	第4回沖縄県民俗芸能大会 獅子舞 (勝連村南風原)	10分	1975年11月30日	夕陽の広場
FILM8-2-2	8mm	第4回沖縄県民俗芸能大会 南島と獅子舞 (石垣島 新川)	20分	1975年11月30日	夕陽の広場
FILM8-3-1	8mm	不明	15分		
FILM8-3-2	8mm	不明	15分		
FILM8-4	8mm	大島山獅子舞 長野県下伊那郡高森町大島山瑠璃寺	6分	1973年4月12日	長野県下伊那郡高森町大島山瑠璃寺
FILM8-5	8mm	お峰入り (現地撮影)	10分	1973年10月16日	神奈川県足柄上郡上北町共和
FILM8-6	8mm	湯立獅子舞	15分	1973年7月15日	神奈川県足柄下郡箱根町宮城野諏訪神社
FILM8-7	8mm	三重オンコ踊 (鯨踊) - 現地青年団より贈られたもの-	14分		
FILM8-8	8mm	大阪住吉 御田植式 N011	8分		
FILM8-9	8mm	よみうりTV開局記念 A 住吉踊 しげさ踊り 柳生太鼓踊り 白石踊り 一合まいた	16分		
FILM8-10	8mm	映D-42424 井筒澄人	9分		
FILM8-11	8mm	山形県中山町 達磨寺 1. 田植踊 2. 花笠踊	4分	1962年2月14日	
FILM8-12	8mm	秋田県八郎潟一日市	4分	1962年2月15日	
FILM8-13	8mm	秋田県山本郡藤里村	4分	1962年2月18日	
FILM8-14	8mm	○/B. 清経 喜多六平田 A. 鬼来迎 千葉県 ※○判読できず	4分		
FILM8-15-1	8mm	第6回関東プロロック民俗芸能大会 no.1	15分	1965年3月13日	日本青年館
FILM8-15-2	8mm	第6回関東プロロック民俗芸能大会 no.2	15分	1965年3月13日	日本青年館
FILM8-15-3	8mm	第6回関東プロロック民俗芸能大会 no.3	15分	1965年3月13日	日本青年館
FILM8-16-1	8mm b.w.	イザイホー no.1	13分	1966年	沖縄県久高島
FILM8-16-2	8mm b.w.	イザイホー no.2	13分	1966年	沖縄県久高島
FILM8-16-3	8mm b.w.	イザイホー no.3	13分	1966年	沖縄県久高島
FILM8-17	8mm color	四目 アリクヤヤー綱引き ナンチュ婦宅 おけまわり	20分	1978年	沖縄県久高島

表2

表2

登録番号	FILM16-6-1
タイトル名	竹富島の種子取り 第一部
制作年	昭和49(1974)年10月撮影
撮影場所	沖縄県八重山郡竹富島
フィルム種別	16mm color (イーストマン・コダック)
上映時間／フィルム長さ(m)	46分/506m
制作者など／クレジット他	企画: 伝統文化財記録保存会、制作: 岩波映画製作所
音の種別	現地録音あり
内容／概要	竹富島の種子取り(飯初づくり、種下し、バリヒルのお願い、干鯛の式、社殿前で棒踊り、たねとり豊年おどり、舞台芸能奉納、世乞い等)
フィルム状態	カラーポジフィルム、汚れ、スリギズ多少有り。退色している(HDテレシネの際には色補正済み)
付属資料／備考	監督: 山内登喜夫氏より寄贈

登録番号	FILM16-6-2
タイトル名	竹富島の種取り 第二部
制作年	昭和49(1974)年10月撮影
撮影場所	島根県鹿足郡津和野町
フィルム種別	沖縄県八重山郡竹富島
上映時間／フィルム長さ(m)	50分/539m
制作者など／クレジット他	企画: 伝統文化財記録保存会、制作: 岩波映画製作所
音の種別	現地録音あり
内容／概要	竹富島の種子取り(あぶじい狂言、舞台芸能奉納「ほんじゃー」「みろく」「あまんち」「種子蒔狂言」「たのりゃー」「さんぐるろ」「鬼狂言」等)
フィルム状態	カラーポジフィルム、汚れ、スリギズ多少有り。退色している(HDテレシネの際には色補正済み)
付属資料／備考	監督: 山内登喜夫氏より寄贈

Report on “Taketomishima no tanetori” Filmed in 1974:  
Films in the Collection of the Department of Intangible Cultural  
Heritage and Their Digitization (2)

SANO Masaki

As of March 2015, the Department of Cultural Heritage of the National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo has a collection of 35 positive films that its organizational predecessor, the Department of Performing Arts, collected, filmed or to which they were donated. In the past fiscal year, six of these films were digitized and a report was made of the results of investigation of their content. This fiscal year, the project was continued and two of the films have been digitized and their content investigated. The results of the investigation are introduced in this paper.

The two films that were digitized are “Taketomishima no tanetori, part 1” and “Taketomishima no tanetori, part 2,” both of which were produced in 1974 by the then Association for the Preservation of Traditional Cultural Properties. The films were donated to the Institute by Mr. YAMANOUCHI Tokio, the director.

Tanetori festival that is held on Taketomishima, an isolated island in Yaeyama County, Okinawa Prefecture, has been continued since 600 years ago – 900 years ago according to another theory. For the people of the island, it is a ritual in prayer for abundant harvest. Moreover, it also functions as a way to tie the people of the island together with an attractive centripetal force and to support the formation of the local community.

Being documentary films taken approximately 40 years ago, they are invaluable materials in considering the transmission of intangible folk cultural performing arts that change with time through comparison with their present state.